

研究助成実施報告書

助成実施年度	2021 年度
研究課題（タイトル）	ツアー・パフォーマンス制作に資する都市ツーリズムとドラマトゥルギーの研究
研究者名※	高山 明
所属組織※	東京藝術大学大学院 映像研究科メディア映像専攻 教授
研究種別	研究助成
研究分野	都市建築史、都市と文化
助成金額	150 万円
発表論文等	

※研究者名、所属組織は申請当時の名称となります。

() は、報告書提出時所属先。

大林財団2021年度研究助成実施報告書

所属機関名 東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻
 申請者氏名 高山明

研究課題	ツアー・パフォーマンス制作に資する都市ツーリズムとドラマトゥルギーの研究
<p>(概要) ※最大 10 行まで</p> <p>本研究代表者・高山は観客（ツアーの参加者）が都市の中を移動しつつ、指定された訪問地で視覚的・聴覚的な仕掛けを体験として提供するツアー型のサイト・スペシフィックなインスタレーションを「ツアー・パフォーマンス」と総称し、ツアー・パフォーマンス作品を国内外の様々な都市で数多く発表してきた。本研究は、ツアー・パフォーマンスを成立させる要素を①都市ツーリズム、②ドラマトゥルギーと設定し、既存の観光ツアー／修学旅行とこれまでのツアー・パフォーマンス（作品）を素材にしなが、都市と演劇の関係を考えるうえで不可欠な、都市ツーリズムとドラマトゥルギーの具体的な機能を探求しようとするものである。翻って、本研究は、二つの要素がどのようにツアー・パフォーマンスを成立させているかの分析へと通じるため、都市ツーリズムとドラマトゥルギーそのものについての研究であると同時に、ツアー・パフォーマンスの制作方法についての研究でもある。</p>	

1. 研究の目的	(注) 必要なページ数をご使用ください。
<p>本研究の目的は、都市ツーリズムとドラマトゥルギーの具体的な機能を探求し、ツアー・パフォーマンスの制作方法に関する研究を行うことである。この研究は、本研究代表者が過去にツアー・パフォーマンス作品を発表してきた経験を踏まえ、ツーリズムとドラマトゥルギーの要素を分析し、都市と演劇の関係を明確にすることを旨とする。同時に、前年度の研究で行った、過去のツアー・パフォーマンスのアーカイブを通して、巡礼型のインスタレーションを実践する芸術実践での重要な参照となることも研究全体の目標とした。</p> <p>また、都市ツーリズムの具体的な研究対象として、近代化やアジア太平洋地域を考える上で歴史的地理的にも多様なテーマをもった長崎市に焦点を絞る。長崎は、鎖国下の江戸時代における出島は言うに及ばず、それ以前から海外との交流を担ってきた国際都市である上に、日本の近代化の出発点かつ培養地であり、長崎をテーマにすることが本研究に豊かな成果をもたらすと考えた。</p>	

2. 研究の経過	(注) 必要なページ数をご使用ください。
<p>研究の進行は、ワークショップを通じて、ツアー・パフォーマンスの研究開発を中心とした実践的なツアー</p>	

「長崎修学旅行ワークショップ」の実施

ワークショップは、長崎の歴史的地理的な多様性や近代化をテーマに、「長崎修学旅行」のプランを考案する観光プロジェクト「長崎さるく（2006年より長崎市内で行われている一般向けの観光ツアーの名称）」や『一、ワークショップという3つの要素を中心に考察することとなった。

・共同研究/制作プラットフォームとしての「ワークショップ」の可能性

まずワークショップという形式を採用した理由として、現在演劇において行われているワークショップの多といったことを通じて、共同で研究/制作するための手段として実施するワークショップは、参加者が都市

・過去のツアー・パフォーマンスのアーカイブからの学びと、新たなアイデアの生み出し

また前年度の研究であった過去のツアー・パフォーマンスのアーカイブ構築が本ワークショップにおいてもパフォーマンスの制作においては、過去の実績や経験から学び、新たなアイデアや制作手法を生み出すことが有効で

・既存の観光ツアー/修学旅行のリサーチ

長崎の観光ツアー「長崎さるく」と、長崎で実施されている既存の修学旅行について、どのようなツアーコ

<長崎さるく>

「長崎さるく」は、長崎市が2006年に開催した博覧会「長崎さるく博」をきっかけにスタートした事業である。重要な要素は「長崎市民」の特性であった。“来訪者を拒まない”という市民性を持った長崎市民こそ、長崎観光の大きな要素であり、長崎市の観光のあり方に大きな転換をもたらした。「長崎さるく」の事業コンセプトは、様々な観光体験が提供されている。市民プロデューサーやさるくガイド、さるくサポーターなど、多くのワークショップ参加者は、このような「長崎さるく」の成り立ちを知り、全73コースの街歩きツアーの分析を行った。

上記のリサーチをふまえて、①「長崎さるく」による観光と、②長崎修学旅行の違いを比較した。

—目的と内容の違い

- ①地域の魅力を体験し楽しむ
- ②学びや体験を通じて教育的成果を得る

—プログラムと活動の違い

- ①観光名所の巡礼や文化体験など
- ②歴史や文化に関連した学習活動や現地研修など

—ガイド役の違い

- ①市民ボランティアを中心に、エンタメ要素や地域の情報を提供
- ②教育・歴史的な解説や学びを促す役割を担当

—参加者の特徴

- ①一般の観光客や地域/街歩き愛好者、幅広い年齢層
- ②学生や教育機関の関係者、特定の学年や学校の生徒

以上の分析から、「長崎さるく」と「長崎修学旅行」は、目的、内容、プログラム、ガイド役、参加者の特

このようなリサーチを踏まえた上で、本ワークショップでは「その豊かな素材たちをいかにして表現（ツアー・パフォーマンス制作）

3. 研究の成果

(注) 必要なページ数をご使用ください。

ツアー・パフォーマンス制作における、都市ツーリズムとドラマトウルギーの関連性

「長崎修学旅行ワークショップ」を実施したことで、実現可能性が高い2泊3日のツアープランが複数生まれた。またそのプロセスにおいて、都市ツーリズムとドラマトウルギーは、ツアー・パフォーマンス制作において密接に関連していることが明らかとなった。

<都市ツーリズム>

まず、都市ツーリズムとは、人々が都市を訪れてその文化や歴史、観光名所などを体験する活動である。都市は多様な要素を持ち、建築物、地理的／歴史的条件、地域の特性などが観光の魅力となる。都市ツーリズムでは、何よりも訪れる人々が都市の魅力を十分に楽しむことが求められる。

<ドラマトウルギー>

ワークショップ参加者がツアープランを作成する過程では、主に「ツアーのタイムライン」を意識しながら、ツアーの旅程表の作成を行うことが、ドラマトウルギーを成立させるために重要視された。ドラマトウルギーは演劇的概念であり、演劇における物語構造や舞台演出の要素を含んでいる。時間や空間、物語の展開などを通じて、観客に感情的な体験や物語性を提供することができる。ストーリーテリングや時間設計などのドラマトウルギーとなる要素をツアーに取り入れることで、“そこにあるストーリー”を魅力的に表現することが可能となる。またワークショップ内では、アートにおける「ドラマトウルギー」と観光ツアーの「ドラマトウルギー」の違いについても考察することとなった。

<ツアー体験におけるドラマトウルギーの重要性>

ツアー・パフォーマンス制作において、都市ツーリズムとドラマトウルギーは相互に関連していると言える。まず、都市ツーリズムの要素をツアー・パフォーマンスに取り入れることで、訪れる人々が都市の魅力をより深く体験することが可能となるだろう。例えば、建築物や地理的條件を舞台とした演出や、地域の歴史や文化に基づいたストーリーテリングなどがある。これにより、そこにしかないサイト・スペシフィックな都市の魅力をドラマティックに表現することが可能となる。

逆も然り、ドラマトウルギーを既存の観光ツアー／修学旅行に取り入れることで、参加者により一層の深い理解／あるいは「既存のツアーでは提供できない気付きを促す体験」をもたらすことができる。ドラマトウルギーの手法を活用することで、ツアーがより魅力的で身体的／感覚的に響く体験となる。

また、ツアー・パフォーマンスでは、参加者も演劇の一部として関与する設定が前提となる場合がある。この設定により、参加者は単なる観光客ではなく、自身が体験の主体となることに

よって、より一層都市との身体的な結びつきを得ることができる。ツアーパフォーマンスは、都市ツーリズムと演劇の融合を通じて観光客に「体験的な舞台」を提供する形式なのである。ただ、ツーリズムとドラマトゥルギーのどちらもがツアー・パフォーマンスを成り立たせるものとして欠かせない要素である一方、その2つを同時にツアーに取り込み、最適なバランスで成り立たせることは決して容易なことではないことが本ワークショップのプロセスにおいて明らかになった。

ツアー・パフォーマンスが都市において実施される意義

都市で実施されるツアー・パフォーマンスは、都市の魅力をより深く体験する機会を提供できる。一般的な観光では、観光地や名所を知り／訪問してもらうことが主な目的となるが、ツアー・パフォーマンスでは、ストーリーテリングや演劇的なパフォーマンスを通じて都市の歴史や文化をより生き生きと伝えることが可能になる。参加者は単なる観光客ではなく、体験の主体として関与することで、都市の魅力をより深く理解し、感じるができる。

また、ツアー・パフォーマンスは都市の文化と芸術の振興を促す役割も果たし得る。都市は多様な文化や芸術の発信地であり、ツアー・パフォーマンスはその一環として位置づけることができる。ツアー・パフォーマンスは演劇の原理や技法を取り入れた芸術的な要素を持っており、参加型の演劇体験を通じて、都市の文化と芸術を活気づける役割を果たす。また、アーティストとの連携や共同制作を通じて、地域のコミュニティを支援し、都市全体の芸術的な魅力を高めることも期待できる。

4. 今後の課題

(注) 必要なページ数をご使用ください。

本研究では、ツアー・パフォーマンスにおけるドラマトゥルギーの特徴を抽出し、それによって、ツアー・パフォーマンスと一般的な観光との違い、その芸術的および演劇的特性などを明らかにした。その方法は、2泊3日の長崎修学旅行のツアープランをつくることをテーマとしたワークショップという形式で行われ、今後実際の修学旅行として実現できる可能性を持ったプランが複数生まれた。

同時に、本ワークショップは「共同で研究／制作するために開発されたプラットフォームとしての可能性」を問うものでもあった。そこで明らかになった点は、学校が用意した旅行で「修学」するよりも、旅行を作ってしまう方が学びになる、ということだった。

そのことから、今後は今回のワークショップを「主体的なまなびを最大限に実現させる場」と捉え、更に発展させていきたい。そのためには、実際に修学旅行をする中学・高校生たちと共に、生徒自らがツアーの訪問地・コース・旅程などを組み立てられるワークショップを実施する。「出来上がった旅行を提供する」のではなく、「修学旅行を作るための方法をワークショップとして提供」することで、プロジェクト・ベースド・ラーニング（生徒が自ら問題を見つけ、さらにその問題を自ら解決する能力を身に付ける学習方法）の観点を取り入れた教育事業としても展開していきたい。その試みは新たなツアー・パフォーマンス制作の実践へと改めて道を開くものになるだろう。